

踏まね踏まれても生き返る

いたばし雑草通信

NO.11 2024.7.21

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。鮮明画像のPDFでお送りします。

<異変かも?①>初めて観察 中心が赤いクサギ(シソ科)の花



秋になると右下の写真のように萼片が真っ赤になり濃い紫の実を付けるのがきれいなのですが、あちこちに実生木が生えてくるし、なんといっても、その名の通り香りが強く「臭い」と感じさせる木なので、昆虫は寄ってきて、人間にはあまり好かれてきませんでした。それに、花は左下のように白くてあまり目立たないので、赤塚公園の武蔵野台地ではことさら「保護」の対象として大切にのではなかった植物です。ところが、最近の観察活動で、例年と同じ場所で中心部分が赤い花を発見！ これまで気が付かなかったのか、何かの異変が起こったのかは分かりませんが、定点での観察活動は繰り返し繰り返し続ける



クサギの花 これまでは白しか見られなかった。

ものだとつくづく思われます。そこに現れる「変化」をどうしてなの？と考えることが観察活動なのでから・・・。



秋の赤い萼片と瑠璃色の果実はとてもきれい。

<異変かも??②> トウバナ (シソ科) も今年は鮮やかなピンク色



花茎が細長く立ち上がる植物はたくさんあるのですが、トウバナはピサの斜塔のように太くどっしりしていて段々に伸びているので「塔花」と名づけられたのでしょう。

ひとつの花の直径は2mmぐらいの小さな花で、地際に咲いているので目立たないのですが。今年は花のピンク色がひととき鮮やかです。

赤塚公園沖山地区では、人が歩く草っ原に群生しています。踏みつけないでね。

<異変かも??③> オヒシバ (雄日芝) よりも背が高くなったメヒシバ (雌日芝)

ゴルフ場に植えられている「芝=シバ」に似ているけれど、放っておくと背丈が伸びてくる草にオヒシバとメヒシバがあります。

オヒシバは雄(おす)のシバと書く通り小穂が太いのが特徴で、それに対してメヒシバは雌(めす)のイメージで小穂はぐっと細く優しくおしとやかなイメージなのですが、これまで背丈もオヒシバよりも低いと思い込んできました。

でも、最近、道端で見かけるメヒシバの背丈がやたら大きいのが気になるようになってきました。どこの街角でも「巨大化した」メヒシバが気になります。

この2種が同居している場所を探そうとすると、これが見つかりそうでなかなかない!

ようやく見つけた場所で、右写真の赤円内のように背丈を伸ばしたメヒシバに対して、オヒシバは茶色の円内のように背が低いではないですか!

これまで、こんなことをちゃんと観察してこなかったのが、単なる思い違い、暑さによって異常になってきているのは観察者のわたしなのかもしれませんが、本号の3つの例を並べてみると、ちゃんと追跡調査を試みる必要はあると思います。

